

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホームかりん

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名 片山 玲子

評価完了日 平成19年 10月 22日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスにふさわしい理念として再検討し、作成し直した。	○ 法人のグループホーム従事者が集まり、地域密着型サービスの理解を含め、話し合った。今後も交流を深め、理念の実現に努めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しく作った理念を職員全員が共有できるよう、見やすいところに掲示し、実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	見やすいところに理念を掲示し、家族や訪問者に説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺に民家が無く日常的には難しいが、併設施設と行き来があり、また外出時に知り合いの方と声をかけあったり、近所の作業所に訪問したりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に参加されている民生委員の協力を得られ、地域のお祭りに招待していただいた。また、町の運動会、文化祭などの行事に積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている。	○ 近隣と離れた環境ではあるが、地域の仲間に入れていただく機会ができた。今後もこのつながりを継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の作業所に牛乳パックを提供したり、デイ利用者への支援（調理に来てもらう）を行なったりしている。運営推進会議や通信で呼びかけている。	○	今後も地域で介護教室を開く等、地域に貢献できることを考えていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で意義や方法について話し合っている。また、昨年緊急時の対応についてアドバイスを受けたが、食べ物や痰がつまった時、バイタル異常時の対応についてのカンファレンス、吸引チューブの整備、連絡方法の確認等、話し合い改善した。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームの近況や予定、外部評価等について報告しており、そこで出た意見を元にボランティア（語り部）に来ていただいたり、地区のお祭りに参加させていただいたりした。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の手続きや、議事録、通信を持参した際に情報交換したり、在宅高齢者に関する相談を受けたりしている。	○	まだ機会が多いとはいえないので、今後も積極的に行なっていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を実施し、資料をいつでも見れるようにしている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待がないよう常に注意している。法律に関しては勉強会を実施した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用者や家族と十分にコミュニケーションをはかりながら、理解した上で契約、解約していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話で希望やプランについて話し合ったり、表情やしぐさで不満や要望を読み取り、毎日の申し送り簿やカンファレンスで共有し、対策を考えている。外部者の面会時には職員が関わらない時間を作り、意見を出してもらおうようにしている。	○ 今後もなるべく利用者の意向を引き出せるよう、コミュニケーションを密にとっていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月個人別にたよりを送付し、写真と共に体調や受診結果、行事について報告している。それ以外にも電話や面会時に必要なことはすぐ伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のたよりの面会時に、気軽に意見を出していただくよう促している。また、事務室から離れたところに意見箱を設置している。運営推進会議時も、家族代表の方が常時2名出席し、意見を出してもらおうようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りや職員会議時、また面接時に意見を聞き、対応している。必要時は法人の上司に報告し、対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	医療面での緊急時は管理者が対応している。また利用者の要望で行事を企画する時には、職員の数を増やしたり、早めに出勤する等の調整を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があっても引継ぎを十分に行い、新しい職員が入る際はきちんと紹介し、コミュニケーションをはかっている。異動した職員を訪問する機会も作っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人の研修計画に沿った研修や県グループホーム連絡協議会の研修を計画し、機会を確保している。受講した職員は会議時に報告し、情報を共有している。随時勉強会も行なっている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の法人内のホームや、町内の他ホームとの交流をはかっている。また、管理者は会津地区の管理者会議に毎月出席しネットワーク作りを進めており、県の研修委員会にも定期的に参加し、研修の企画や実施に携わっている。	○	今年度町内に新しいホームが増え、職員の行き来ができた。今後もさらに交流を深めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修や交流会への参加を積極的に勧め、管理者と随時面接をしながら職員の状況を把握するようにしている。職場内では休憩の場所を確保し、定期的に親睦会を行なっている。	○	休憩がとりにくい、一人で勤務している時間帯の不安などはやはりあるため、今後もストレス軽減に向けた取り組みを行なっていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の個人目標を立て、進捗状況や成果など随時管理者は職員と面接している。運営者は管理者と話し合いながら、研修会でのアドバイス等行なっている。また資格取得に向けて積極的に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)	/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統的な食事の作り方、地域の行事や風習、昔の生活や遊び等を教えていただくことにより、一緒に生活し支えあっている雰囲気を作っている。利用者の不安や喜びを共有できるよう留意している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>他事業所（老健）に移られた方がいたが、職員が何度か面会に伺った。今年度は利用終了の方はまだおられない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や、今まであまりしていなかった調理をしてみたい等の希望が日常の会話で出され、プランに追加した。また、会話が困難な方も表情やそぶりで意向を把握するよう努め、職員で共有しプランに生かしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や家族の話等によりこれまでの生活を把握し、センター方式の導入により全職員が共有できるようになってきた。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の見守りや会話を通して把握し、気づいたことは申し送りやカンファレンスにより意見を出し合いながらプランに生かしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや家族来所時に話を聞く、また主治医とも相談しながら意見を出し合い、計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行なっているが、状態の変化があった場合は毎月のカンファレンスや随時のミーティングで見直しを行い、新たに計画を作成している。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿に、プランその他のケアや気づいたこと、状態の変化等を記入し、情報を共有しながらカンファレンスに生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや民生委員と連携をはかり、地域交流の場を増やしている。また本人の希望に応じて定期的に図書館を利用している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅のケアマネジャーや業者と連絡をとり、介護用品の購入等行なっている。また併設施設の理容サービスを定期的に利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議その他で地域包括支援センター職員と連絡を取り合い、情報交換している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、主治医を決めている。家族同行の受診が原則だが、遠方で来られない家族も多いため、職員が同行し、随時報告している。家族同行の方も必要時職員と一緒に行き、主治医と連携をはかっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に精神科医がおり、受診時など随時相談し、助言や治療を受けている。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医や病院のワーカーと連絡を取り合い、家族も含めて早期退院に向けての話し合いを行なった。今後入院の可能性が大きい利用者に対しても、話し合いを行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態を随時把握し家族に伝え、また家族の意向を聞き主治医と話し合いをしている。その結果を職員全員に伝えている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員と話し合いながら主治医と連携をはかり、急変時の対応等も確認している。	○	スタッフが不安なく支援できるよう今後も話し合いの場を継続して設け、主治医や家族と連携をはかっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	昨年度1件あり、プランや支援状況について事業所のワーカーに申し送りを行なった。その後数回、職員が訪問した。今年度はまだ退所された方はいない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の声かけや会話がプライバシーを損ねることのないよう、全職員が頭に入れてケアを実施している。(忘れてしまったり失敗したことなどは、他の方に気づかれないようフォローしている。)		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	したいこと、食べたいもの、お茶の種類、入浴の希望等をなるべく自分で決められるよう支援している。また不安や疑問に対しては、納得できるよう丁寧に説明している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら、散歩や買い物、外出等その時々決めて実施している。起床や食事の時間も決まっていない方もいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	可能な限り本人の意向を聞きながら、服装を決めたり介助したりしている。ほころびや汚れは職員がさりげなくチェックしている。また本人の希望を聞きながら理容の予約をし、サービスを受けている。毛染めを定期的に職員が実施している方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを聞きながら、なるべく希望に沿うような調理をしている。利用者と職員は必ず一緒に準備、食事、片付けを行なっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつは本人の希望を聞きながら日常的に楽しんでいただいている。お酒も希望時に飲めるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁のある方は多いが、パットのみでおむつは使っていない。様子を見ながら声をかけるなどして、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する日や時間に入れるよう、また利用者同士の関係を考慮して、気の合わない方と一緒にならないよう順番を決めている。重度化に伴い安心して入浴していただけるよう、手すりや入浴台を新たに設置した。	○	利用者の身体レベルが重度化しているため、今後も一人一人のレベルに合った支援をしていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝も含め、基本的に好きな時間に起き、好きな時間に眠れるよう支援している。また夜間不眠傾向にある方には、会話やマッサージ、水分の提供等で安眠できるよう対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	調理、園芸、縫い物、習字、外出等一人一人の役割や楽しみについてプランに組み込み、毎月のカンファレンスで再検討しながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	自分で出来る方は少額を持ってもらい、買い物の際に使っていただいている。残りの方は事業所で預かっている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	あらかじめ計画する外出もあるが、その日の天候やその時々希望に応じて、臨機応変に散歩や買い物、花を見に行く等出かけられるよう配慮している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	一人一人の希望を聞きながら、隣町への買い物や美術展見学などの機会を毎月作り、実施している。遠方のため来訪が難しい家族もいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	一人一人の事情に合わせ、電話や手紙のやりとりを実施している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	面会時間を設けず、いつでも訪問でき、ゆったりした雰囲気でも過ごせるよう配慮している。食事を一緒にとっていただく、泊まっていたく等も自由に行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強会を実施し、全員が理解している。いつでも資料を読めるようにしている。日常的にも身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関その他、鍵はかけていない。外出しそうな時はさりげなく見守り、声をかけるようにしている。		
67 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼は利用者と一緒にホールで過ごし、台所からもホールを見渡せるようになっている。記録もホールで見守りをしながら行い、夜は2, 3時間毎に巡視している。状態によりさらにこまめに巡視している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や薬品は保管しているが、ナイフやはさみは自分で持っていていただいている方が数名いる。		
69 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今までの事故報告やミーティングに加え、ひやりはつとを活用するようにした。防災訓練も毎月行うようにし、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の応急手当の勉強会やマニュアルの確認を、繰り返し行っている。隣接の老健施設とも連携をはかり、あわてず確実に連絡、報告できるよう話し合っている。	○	訓練しすぎるということはないので、今後も職員の意見を聞きながら不安なくケアに取り組めるよう、努めていきたい。
71 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の初期消火、通報、車椅子や布団ごと運ぶ避難誘導などの訓練を、毎月の職員会議時に一人ずつ行なうようにした。また防災バッグも整備した。最近併設施設や消防署との合同訓練を行い、地域の方にも参加していただいた。	○	今後も定例化し、火災以外の水害、地震、停電等についても意見を出し合いながら訓練を継続させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>リスクについて家族に説明しまた、事故が起きた時やその対応策についても状況に合わせ家族と話し合っている。事故防止のために行動を制限することのないよう、職員会議や事故後のカンファレンスで話し合っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェックを始め、顔色や食事、排泄等の状態を常に観察し、必要時は管理者やナースに報告し対応している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の一覧表を作り、作用、副作用をすぐ確認できるようにしている。また薬の本も常備している。主治医ともよく話し合っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分、野菜、寒天、牛乳等の摂取や散歩などに心がけている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の状態に応じてうがいや義歯洗浄の声かけ、介助を行なっている。うがいが困難な時はガーゼによる口腔清拭を行なうこともある。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量を全員チェックし、記録している。水分、食事量、排泄量を細かく記録し、体調維持に努めている方もいる。また献立は職員が立て、一週間ごとに併設施設の管理栄養士にバランス等見てもらい、印とアドバイスを受けている。</p>	<p>○ 今後も栄養バランスに気をつけ、健康管理に努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体のマニュアルはあったが、さらに実情に合わせたホーム独自のマニュアルを昨年作成し、全職員で実行した。	○	開所8年を迎え、利用者の身体レベルが重度化しているため、一人一人のレベルに合った支援を今後もしていきたい。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	最近職員会議で管理方法をもう一度見直し、冷凍の保存期間やまな板の消毒方法を改善した。冷蔵庫の点検も徹底できるようにした。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口付近に看板があり、テラスや玄関付近にプランター、玄関内にも常時花を飾る等、季節感のある暖かい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まぶしくないようなカーテンの工夫、毎月違うタペストリー、花や観葉植物を置く、利用者の作品を飾るなどして、居心地の良い空間作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの配置を何度か変え、利用者同士の関係がうまくいくよう工夫している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や布団を持ってきていただく、じぶんで作った作品や写真を壁に貼るなどの工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ホーム内2ヶ所に温度、湿度計を設置し、また暖房使用時は特にこまめに換気ができるようチェック表を作り、実施した。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや廊下に手すりはついているが、入浴が困難になった利用者のために、最近浴室に浴槽用手すり、椅子、滑り止めマットを追加した。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室毎に色分けしたのれんやドア、暖かみのある表札、わかりにくい方のための特別な表示等を行なっている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>広いテラスがあり、お茶や外気浴、洗濯物干し、花の手入れ等に活用している。バーベキューや芋煮会等でも活用している。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

会津磐梯山と会津盆地の雄大な眺めのもと、県内で3番目にできたホームとして、暖かくゆったりした時間を作り続けています。人生の大先輩に対する敬意と、共に支えあう関係を大切にしながら、一人ひとりのご希望に合わせた外出や手芸、園芸など利用者の方々と職員が一緒になって生活を楽しまれています。また、看護師の配置による医療連携体制を整え、防災訓練や感染対策などにも積極的に取り組んでいます。笑顔あふれるかりんへどうぞおいでください。